

【緑地を楽しむ本】

『成瀬は天下を取りに行く』

宮島未奈/著

新潮社



14歳の夏休み前から18歳の春まで、滋賀県の膳所を舞台とした、成瀬あかりと幼馴染の島崎みゆきの、青春物語。

成瀬あかりは破天荒ながら実行力と知性と集中力のある、愛すべき人物です。

200歳まで生きるのだと魅力的なことも言い、そうなりそうな気がします。

ポジティブな思考、自分が面白いと思ったことに、とことん準備をして応援の仲間作り

も上手。あと味が爽やかな作品であること間違いありません。

上手く言えませんが、この夏のParisオリンピック、ブレイキンなどビックリしました。多様化した道具の登場と変化と進化。競技者達のインタビューを見ると素直で爽やか、競うというより体を動かすことを、ただただ楽しんでいる感じがして成瀬あかりと同じ世代の感じがしました。

無数にいる生き物の中のヒトの変化、気になります。

(斎藤光代)